

初冬の甲府にて－雪の山・ほうとう・ミレーの絵

藤原 道夫

昨年 10 月にピサロの絵について書き、また 11 月にゴッホ展を見に行つて感想を述べた。二人ともパリ郊外に住み、少し前に活動していたミレーの影響を受けて農民の姿をそれぞれの表現法で描いている。ではミレーの絵はどんなのだろう、原画を見たい思いが膨らんだ。そうだ甲府に行ってみよう、と思ひ立つ。ミレーの絵を見ることができし、それに冠雪した山の展望も楽しめる。12 月初旬のこよなく晴れた日に出かけた。

中央本線の列車が笹子トンネルを抜けると、甲府盆地が一望できる所に出る。目は自然に南アルプスの方角へと向く、遠くに冠雪した白根三山の山並みが神々しい姿を顕している。近くの山々の上に富士山が真っ白な頭を出していた。

甲府では駅ビルの屋上に行つてみた。鳳凰三山の奥に、摩利支天を従える甲斐駒ヶ岳が一段と高く聳えている。頂上辺りがうっすら雪化粧。その右手奥に茶褐色の 3 つのピークが望めた。八ヶ岳のうち赤岳、権現岳それに編笠山だろう、裾野が美しい線を引いている。

11 時になって老舗ほうとう屋が開き、待っていた数人が中へ、私も続く。シンプルな「かぼちゃほうとう」を注文した。ほうとうを食べるのは久しぶり、独特の分厚い麺の食感と味わいに期待する。湯気を立てた鍋が運ばれてきた、中にかぼちゃの厚めの切れ端が見える。熱々のほうとうをかぼちゃとともに堪能した。

食後に山梨県立美術館に向かう。駅前からバスに乗って 15 分ほどで着いた。ここはミレーの作品の所蔵で知られ、展示目録に 13 点載っている。最も有名な絵は「落穂拾い」だろう、3 人の農婦の姿が写実的に描かれている。麦秋の日差しが柔らかく、絵全体の色調が明るい。「種まく人」も良く知られている絵だ。遠くに夕焼け空が描かれ、種まく人の周りは暗くなりかけて顔がはっきりしない。シルエットになっている人の構図がよい。ゴッホはミレーを尊敬し、「種まく人」からヒントを得た絵を何点か描いた。ピサロも同じく農民の姿を描いた。ミレーは勤勉に働く貧しい農民の尊厳をも描き出したといわれ、社会問題になつたらしい。自分の感性を頼りに絵をじっくり見る。好き嫌いという感情も入ってくる。画家の表現法についてあれこれ思い巡らすものの、素人が感想をまとめるのは容易でない。ただ印象をまとめる上で、画集ではなく実物の絵を見ることが大切だ、このことを改めて確認できた。